



編集・発行

● 宮崎県立図書館

〒880-0031 宮崎市船塚

3丁目210番地1

TEL 0985-29-2911

FAX 0985-29-2491

ホームページ

<http://www.lib.pref.miyazaki.jp/>

忘れてはならないこと



宮崎県立図書館

館長 伊藤 惇一

8月28日付けの異動で、皆さまに大変ご面倒をおかけいたしました。皆様の温かいご配慮をいただき着任することができました。心から感謝申し上げます。

夏休みも終わろうとしている着任の日でしたが、多くの子どもたち、そしてお母さん、お父さんたちの本を読んでいる顔を見て、本当に嬉しく、また、図書館の役割の重さを肌で感じたときでもありました。

早速、県立図書館の運営方針を見せてもらいました。そこには、「生涯学習を支援する中核施設の一つとして、さらには県内の情報拠点として県民の多様化・高度化した学習・情報・娯楽ニーズに対応するため、広範囲で的確な資料の収集・整理及び保存に努め、その利用促進を図る。また、——（略）」とありました。

この運営方針を読み、館内の蔵書・資料を見て、「ふっ」と頭の中を過ぎったのは、宮崎県史編纂のことでした。それは、昭和58年の宮崎県置県100年の記念事業として松形前知事が発表され、その後16年間で、他県に例のないスピードで素晴らしい宮崎県史が計画どおり完成したのですが、「この膨大な量の取り纏めに当たっては、県立図書館のしっかり

した信頼できる学術的な資料と過去の研究の蓄積によるところが最も大きいものでした。」との、当時の県史編纂室長永井先生のお話を思い出したからでした。

多くの人の「知りたい」「勉強したい」という願いに応え、県立図書館が出来る限りのサービスを提供することは、その旨とするところですが、これを、過去から現在に亘り支えてきた人、支えている人の目に見えない凄まじさを本当に実感した思いでした。

2年前の牛のBSEの発生以来、食の安全性のこと等から「地産地消」の言葉がよく聞かれるようになりました。農水省の統計で食料消費の現状を調べるとその約30パーセントが家庭以外での外食等で、しかも食品の廃棄や食べ残しは、世帯で約8パーセント、結婚披露宴約24パーセント、宴会約16パーセント等となっています。そして、この食べ残し等は「ごみ」となって、さらにお金をかけて処分しているわけです。私たちが飽食のあまり「私たちの命を支えているのは、食べ物である」ということ自体をどこかに忘れて来ているのではないのでしょうか。

図書館行政においても、新たなメディアの開発等による従来になく多様な情報が現出しています。これに流されることなく、利用者がその利用者が必要とする資料や情報との“たしかな出会い”をしっかりとコーディネートしなくてはなりません。

そのためには、これまでに蓄えてきた記憶と知識を行政と利用者が共有し、全ての利用者が、その共通の材料をもとに自らが考え、理解する場としての「忘れもの」のない県立図書館を目指さなければならないと思っています。

目次

[連載]

- ・うちの図書館⑩ 5
- ・やまびコステーション紹介⑩ ... 6
- ・読書団体紹介⑩ 6
- ・レファレンスコーナー 7

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています